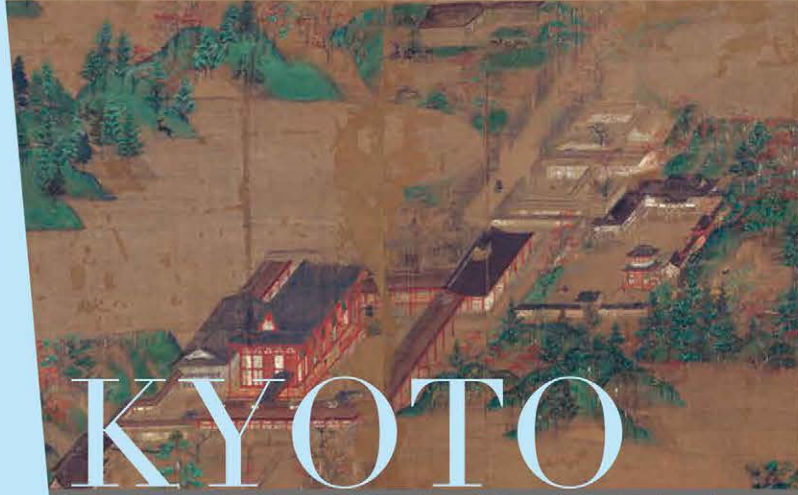


詩は徳一丁起筆持筆在如  
 ういふ詠一丁天仁達河在う  
 字と堂一丁永可可可可可可  
 に交し四堂一丁及筆と論  
 筆字色一丁丁丁丁丁丁丁丁  
 子一福一丁進米一丁走居た  
 一丁一丁白飛た一丁一丁一丁  
 一丁一丁昔四一丁一丁一丁  
 一丁一丁新一丁一丁一丁一丁  
 李印 叔日堂一



# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2021 April to June vol. 210



疑然國師没後七〇〇年特別展  
**鑑真和上と戒律のあゆみ**  
 特別企画  
**オリュンピア×  
 ニッポンビジュエツ**  
 特別公開 令和3年度京都国立博物館  
 考古資料相互活用促進事業  
**四国の弥生土器と  
 弥生・古墳時代の生産  
 辰砂と鉄**

京都国立博物館

だより

二〇二一年  
 四・五・六月号



凝然国師没後七〇〇年【特別展】

# 鑑真和上と 戒律のあゆみ

3月27日(土)～5月16日(日)【平成知新館】

前期展示：3月27日(土)～4月18日(日)

後期展示：4月20日(火)～5月16日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。

「鑑真」と聞いて、唐招提寺所蔵の国宝「鑑真和上坐像」を思い浮かべる方は多いと思います。しかし、どんな功績を遺した人か、すぐに答えられる人は少ないのではないのでしょうか。その答えを紐解くキーワードが「戒律」です。

仏教が生まれたインドでは、発生初期から出家(僧侶)が集団で生活していましたが、律は、その集団生活を行う上でのルールとして整理されていったものです。一方、戒とは、仏教徒の守るべき倫理基準で、その基準は対象者や宗派によって分かれます。特に僧になる場合は、その宗派の構成員として社会的公認を得るために誓いを立てる必要があります、その通過儀礼として受戒(授ける側の立場だと授戒)という儀式が行われました。

授戒の際は所定のきまりがありますが、重要なのは戒を授ける側がきちんとした僧でないといけないところです。奈良時代の日本では授戒の儀式を行うことができる僧侶が少なく、国際基準を満たしていませんでした。だからこの鑑真要請だったのです。唐の揚州・大明寺の住持であった鑑真は、律の大家として尊敬を集めていました。中国では、僧侶のあるべき姿を示すものとして律の研究が進められていましたが、その成果を集大成したのが南山大師道宣(五九六～六七)です。鑑真はその南山律の正統的な大家でした。

聖武天皇の意を受けた栄叡、普照の懇請により、日本への渡航を決意し、苦難の末、天平勝宝五年(七五三)、六度目にしてようやく日本の地を踏んだ鑑真は、唐招提寺を拠点に、中国正統の律の教えを日本に定着させ、日本仏教の質を飛躍的に高めました。しかし、戒律は釈迦伝という守られるべき理想ですが、日本社会という現実にはそぐわない点もあり、かつ社会自体も変化を続けていきます。その結果、理想と現実の相克が起こります。

そこで、現状を現状として認め戒律に対する評価を変えるか、そのような現状追認に対して理想主義を堅持しようとするか、真面目な僧であればあるほど真剣に考えざるを得なくなり、つまり、戒律を学ぶことは、僧侶とは何か、仏教とは何かを問い直すことでもありました。ですから、日本が社会変動を迎えるたびに、幾多の名僧が戒律に注目し、仏教の革新運動を起こすことになったのです。

特に、鎌倉時代には、唐招提寺の覚盛(一一九四～一二四九)、西大寺の叡尊(一二〇一～一二九〇)、泉涌寺の俊苾(一二六六～一二二七)をはじめ、没後七〇〇年を迎える凝然(一二四〇～一二二二)などの英傑が登場し、戒律の精神にもとづき社会福祉事業などを行い広範な支持を集めました。

更に忘れてはならないのは、今日の日本社会の基盤となった近世においても、明忍(一五七六～一六一〇)や慈雲(一七一八～一八〇五)などによって重要な律の復興運動が展開されたことです。

(大原嘉豊)



重要文化財 俊苾律師像 自賛 京都・御寺泉涌寺 (通期展示)



国宝 鑑真和上坐像 奈良・唐招提寺 (通期展示)



三国祖師影(部分) 京都・大谷大学博物館 (後期展示)



重要文化財 金銅装戒体箱 (元応二年五月十二日朱漆銘) 大阪・金剛寺 (後期展示) 撮影：森村欣司



重要文化財 「南山教義章」巻第二十九(「華嚴孔目章發悟記」巻第二十一紙背)(部分)凝然筆 京都国立博物館 (通期展示<巻替あり>)



重要文化財 東征伝絵巻 巻四(部分) 蓮行筆 奈良・唐招提寺 (通期展示<巻替あり、この場面は後期展示>)



国宝 金銅舍利塔(金龜舍利塔) 奈良・唐招提寺 (通期展示)



国宝 興正菩薩(叡尊)坐像 善春作 奈良・西大寺 (後期展示) 撮影：森村欣司



重要文化財 大悲菩薩(覚盛)坐像 成慶作 奈良・唐招提寺 (通期展示)



国宝 円珍戒牒(部分) 東京国立博物館 (前期展示)



慈雲巖上坐禅像 原在中筆 自賛 大阪・高貴寺 (前期展示)



【特別企画】

# オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)  
【平成知新館2F・1E】

本展は、多神教を奉じた古代ギリシア世界と、日本の信仰風習とを対比させながら、当館収蔵の名品を楽しんでいただく企画です。古代オリンピックに親しんでいただく機会にもなるでしょう。

古代ギリシアの神々も、日本の神々も、さかんに恋をしたり、兄弟喧嘩をしたりするような人間みのある神々でした。擬人化された神々には住まいとして神社が建てられ、家財道具として神宝が調えられました。ただし、神々はいつも人の姿をしていたわけではありません。ご存じのとおり、日本の美術品には、神格化されたり、神の使いとなったりした特別な動物たちも登場します。オリュンピアは、ギリシアの神々を統べる主神ゼウスを祀る特別な神域でした。そのオリュンピアで四年にいちど開かれる競技大会は、ギリシア全土に知られた重要な祭典でした。祭典が開かれると、戦争中の都市国家も停戦し、各地から押し寄せる参詣者を目当てに商人が集い、詩人や音楽家は祭典のスポンサーだった貴族たちの目をひいて職を得ようと躍起になり、美術館には立派な奉納品が並びました。日本でも、聖地の門前は出店や芸能者で賑わい、境内では、競べ馬や流鏝馬、相撲、蹴鞠、鷹狩りなどの体力系の行事が行われ、詩の腕前を競いあう歌合せ、音曲や舞が奉納されました。

古代オリンピックの選手たちは、榮譽のために心身を鍛えあげ、自分の能力の全てを披露しました。厳かな行進、ファンファーレ、百頭の牡牛を生贄にする儀式に続き、徒競走や格闘技、円盤投げや槍投げ、馬車競争や武器甲冑を身にまとって全力疾走する競技などに参加しました。勝つためとあらば、医学、薬学、栄養学、夢占いにも頼りました。ひとつたび勝利すれば、連日の祝宴に酔いしれ、自身の肖像を神域に奉納する権利を手にし、地元では生涯にわたって好待遇を得ることになりました。東洋では、鍛錬を極めれば英雄ならぬ仙人になれると信じられ、日本の山々では修験者たちが研鑽を積みましました。祭りの行列や美しい武器甲冑、肖像画や宴会の道具など、思いがけない出会いがいっぱいの会場です。どうぞお楽しみに。

(永島明子)



金剛力士立像 京都国立博物館  
※阿形は背中の筋肉をこぼしたため、今回特別に後ろ向きに展示いたします。

神農図 月舟寿桂賛 元信印 京都国立博物館



群鳩図 馬 円山応挙筆 京都・石清水八幡宮



御所人形 相撲 京都国立博物館



馬形埴輪



重要文化財 金銅錫杖頭 京都国立博物館



祇園祭礼図屏風(右隻) 京都国立博物館

【特別公開】令和3年度京都国立博物館考古資料相互活用促進事業

## 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産

—辰砂と鉄—

6月5日(土)～7月4日(日)  
【平成知新館3F・1E】

今年度は愛媛県・徳島県・大阪府柏原市と考古資料の交換展示を実施しています。今回はこのうち、弥生・古墳時代の生産遺跡を中心に紹介します。弥生・古墳時代は日本農耕社会の成立・成熟期で、背景に大きな社会変革が想定されていますが、その実態は謎でした。しかし、一九八〇年頃から石器・土器や金属器などの生産遺跡の発掘調査によって、社会を支えるさまざまな生産活動に大きな差があることが鮮明になってきました。なかでも、「朱」と「鉄器」の生産は弥生・古墳時代の転換やその後の社会の発展を支えた基盤・産業、とも云える分野であったことが明らかになりました。

「朱」は、古くから日本列島の人々が深い関心を寄せてきた素材です。いわゆるベンガラが一般的ですが、縄文時代にも水銀朱(辰砂)を用いた例があります。最古は約一万年前の縄文時代早期の土器に塗られた赤色顔料で、この風習は弥生・古墳時代に墳墓での使用がもつとも盛んになり、神聖な色とされていたと考えられます。弥生時代終末から古墳時代初め頃の徳島県若杉山遺跡(図1)は、水銀朱の製造方法が初めて明らかにされた遺跡で、原鉱石(辰砂原石)から生産工程を復元できる唯一の遺跡です。また、一九七〇年頃から弥生墳丘墓などで想定された弥生時代の首長葬送儀礼における朱の使用(施朱)が重要な儀礼として位置づけられ、古墳時代に確立した過程を裏づける重要な遺跡です。

一方、「鉄」は現代につながる社会の基幹物資です。大阪府大泉遺跡(図2)は古墳時代最大の鍛冶生産遺跡で、当時の急速な需要の増大を支えた現在の重化学工業コンビナートのような遺跡です。多数の鍛冶専用工房が調査され、鞴(送風装置)の羽口や鉄器を研ぐ砥石をはじめ、排出された大量の鉄滓が出土しており、「鉄の時代」の到来を象徴しています。このほか、地方色豊かな四国の弥生土器や分銅形土製品(図3・4)、奈良時代の律令祭祀を代表する人面墨書土器(図5)をはじめ、中世の輸入陶磁器など、各地の新出土品も展示していますので、普段の京都国立博物館とは一味違った多様な考古資料をご覧ください。(古谷 毅)



【図1】若杉山辰砂生産遺跡出土品(石臼・石杵・辰砂原石) [徳島県阿南市水井町] 弥生時代 3世紀 徳島県立博物館



【図2】大泉鍛冶生産遺跡出土品(鞴羽口・鉄滓・砥石) [大阪府柏原市平野一丁目] 古墳時代 5～6世紀 柏原市立歴史資料館



【図3】分銅形土製品 [愛媛県松山市緑土居窪遺跡] 弥生時代 前2～2世紀 愛媛県埋蔵文化財センター

### 平成知新館 名品ギャラリー

3F・1 陶磁

【日本と東洋のやきもの】

6月5日(土)～7月4日(日)

3F・2 考古

【特別公開 四国の弥生土器と弥生・古墳時代の生産—辰砂と鉄—】

6月5日(土)～7月4日(日)

2F

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

1F・1 彫刻

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

【日本の彫刻】

6月5日(土)～7月4日(日)

1F・2・6

【特別企画】

オリュンピア×ニッポン・ビジュツ

6月5日(土)～7月4日(日)

※7月6日～12月26日まで名品ギャラリーは休止



予告【特別展】

# 京の国宝

## 守り伝える日本のたから

7月24日(土)～9月12日(日) 〔平成知新館〕

前期展示：7月24日(土)～8月22日(日)  
後期展示：8月24日(火)～9月12日(日)  
※一部の作品は右記以外にも展示替を行います。

いま私たちが目にすることの出来る古の品々は、多くの人々の手を経て、過去から現代へと伝えられてきました。我が国はそうした貴重な文化財のうち、特に歴史上、芸術上たぐいのない価値を持つものを国宝や重要文化財に指定し、国民共通の財産として保全を図っています。この制度の基礎である文化財保護法は、太平洋戦争後まもない昭和二十五年(一九五〇)に制定され、今日に至る七十年あまりの間、学術の発展や社会の変化とともに歩みながら、少しずつ指定を拡充してきました。

とりわけ古都、京都の文化財は早くから重視され、文化財保護の進展に重要な役割を果たしてきました。この日本を代表する歴史都市は、同時に我が国の誇る学問や芸術の一大拠点でもあり、令和四年度には文化庁の京都移転も控えています。

本展は、そのような京都ゆかりの名高い国宝、皇室の至宝の数々を中心にご覧いただきながら、文化財のもつ不滅の魅力とその意義をご紹介しますとします。会場では、長きにわたる我が国の文化財保護のあゆみや、日々の調査研究、防災、修理といった、文化財を守り伝える上で欠かせない様々な取り組みも取り上げます。本展を通じて、日本の歴史と美術工芸の粋をご堪能いただくとともに、

私たちの社会にとってかけがえのない文化財を後世に伝える営みに想いを馳せていただければ幸いです。(森 道彦)



国宝 宝相華迦陵頻伽繡繪冊子箱  
京都・仁和寺 (通期展示)



国宝 梵天坐像 京都・東寺(教王護国寺) (通期展示)



国宝 松に秋草図屏風 長谷川等伯筆 京都・智積院 (前期展示)



国宝 御堂関白記 自筆本 寛弘元年上巻(部分) 京都・陽明文庫  
(通期展示<寛弘元年上巻:前期展示、寛弘八年上巻:後期展示)

### 「ミュージアムパートナー」一覧

※令和3年3月末現在  
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

#### 【ゴールド】

- 三州ベイント株式会社
- 土屋和之
- 株式会社 のびのびホールディングス
- 株式会社 俄
- ZのE.A株式会社

#### 【シルバー】

- 有限会社竹内美術店
- 学校法人 二本松学院

#### 【キャンパスメンバーズ】一覧

※令和3年3月末現在

会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様  
に、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会  
などさまざまな特典を提供しています。詳細はウェブ  
サイトをご確認ください。

- 学校法人 瓜生山学園
- 国立大学法人 大阪大学
- 大阪大谷大学 / 大谷大学 / 大手前大学
- 学校法人 関西大学 / 学校法人 関西学院
- 京都大学 / 学校法人 京都外国語大学
- 国立大学法人 京都教育大学
- 京都工芸繊維大学
- 学校法人 京都産業大学
- 学校法人 京都女子学園
- 京都市立芸術大学 / 京都精華大学
- 京都橘大学 / 京都府立大学 / 近畿大学
- 学校法人 大覚寺学園
- 国立大学法人 滋賀大学 / 四天王寺大学
- 就実大学 / 成安造形大学 / 帝塚山大学
- 学校法人 同志社 / 奈良大学
- 奈良女子大学
- 奈良先端科学技術大学院大学
- 学校法人 二本松学院 / 花園大学
- 佛教大学 / 学校法人 立命館 / 龍谷大学



「鑑真和上と戒律のあゆみ」展でも取り上げられている「仏舍利」は、仏教の信仰上とても重要な意味を持っている。古代インドを発祥の地とする仏舍利信仰は周辺仏教国にもあまねく広がり、各地で独自の発展をしているため、地域ごとの仏舍利信仰を調べることで、共通点と独自性の両方を知ることができるのだ。

さて、私には仏舍利とこれを納める舍利容器にまつわる忘れられないエピソードがある。二〇一一年十一月八日、当時九州国立博物館にいた私は、バンコク大学東南アジア陶磁器博物館で日タイ間の文化交流を裏付ける文化財の調査を行っていた。調査がひと段落ついたころ、先方の教授が「ひとつ見てもらいたいものがある。これは調査に来た人たちみんなに聞いていることなのだが」と前置きして、何やら大量の出土品らしきものを提示した。見れば統一感が有るようで無いような不思議な形状をした素焼きの土製品群である。教授は、この種の土製品は住居区画とは少し離れた所から百や二百ではきかない数が一括して出土し、出土時に中には何も入っていないのだ、と告げ、あまりにも分からないから、中には虫籠なんじゃないかと茶化す人までいるよ、と苦笑いをした。

「僕、金目のものが専門なんですよね〜」などと、軽く返しながらそれらをより分け始めると、次第にあることに気が付いた。円形の胴に涙滴形の頂部を持つものが多い。これ、古代インドの骨壺を原型に持つ塔鉢形舍利容器では？ そう思い、改めてこれらの土製品を精査すると、中には五鈴鈴を想起させる突起を備えたものまである。間違いなく仏教関係、しかも密教の影響がある品だ。現在でこそ上座部仏教の主要国であるタイだが、かつては隣国クメール王朝などの影響を受け、タイ南部

では密教系の教えも盛んに行われていたのである。興奮してこの土製品が舍利関係の造形をしていること、さらには密教の影響が伺えることを説明し、おそらくは十三〜十五世紀の骨蔵器ではないかと伝えると、教授は確かに時期的にはその頃のものだが、タイの古い時代には今で言うような墓はなく、先ほども述べたがこの土製品には何も入っていないかと繰り返す。

他国の歴史をよく理解していない外国人があまり食い下がるのも失礼かと思ひ、その場はそれで終わらせたが、やはり納得いかない。あれは骨関係だよ、骨骨、間違いなく骨。などと憑りつかれたように考えながら帰国の途につき、何の気なしにテレビをつけた。おりしも、ご成婚されたばかりのプータン国王王妃両陛下が訪日されており、番組は俄かにプータン特集である。プータンの特徴を様々な角度から紹介していた矢先、なんと画面にタイで見た土製品とそっくり同じものが映っていたのである。そんな馬鹿など、思いもよらない再会にテレビにかじりつき必死にメモした結果、これら土製品は「ツァツァ」と呼ばれるものであり、遺灰を練り込み、墓の代わりに埋納して死者を弔うものだと分かった。

さらに調べると、プータン以外にもヒマラヤ周辺の地域ではこの種の埋葬方法がいまだに取られているそう。それ見たことか！と思う一方で、タイでは五〇〇年前に失われた文化がほかの地域ではいまだに人々の生活の中に息づいており、さらにはその造形も同じくしているということに言い知れぬ感動を覚えた。当然、お礼の挨拶とともにすぐさまこのことをバンコク大学に報告したのだが、くだんの教授からの連絡はいまだにない。



## 【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 講座・イベント

### 《記念講演会》

4月3日(土)「律とは何か」

京都国立博物館研究員 上杉 智英

4月10日(土)「日本の戒律運動と日本人」

京都国立博物館保存修理指導室長 大原 嘉豊

4月17日(土)「俊苧と宋代戒律の日本への影響」

泉涌寺宝物館「心照殿」学芸員 西谷 功 氏

5月8日(土)「鑑真和上とゆかりのみ仏たち」

京都国立博物館上席研究員 浅湫 毅

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし当日の特別展の観覧券が必要)。

※当日午前9時30分より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。

### 《土曜講座》

6月5日(土)「おうちで学び楽しむ文化財と博物館」

京都国立博物館研究員 近藤 無滴

6月12日(土)「弥生・古墳時代の生産遺跡—日本原始古代の産業と辰砂・鉄—」

京都国立博物館研究員 古谷 毅

6月19日(土)「神々に捧げる自己ベスト」

京都国立博物館教育室長 永島 明子

6月26日(土)「東アジアをめぐる「金球瑠」の旅」

京都国立博物館考古室長兼学芸部長 尾野 善裕

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。

※当日午前10時より、平成知新館1階にて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。整理券配布の待ち列が長くなり、適切な間隔が保てないと判断した場合には、配布の開始を早めさせていただきます。

### 《令和3年度夏期講座のお知らせ》

テーマ：日本人と自然Ⅲ

開講日：7月2日(金)・3日(土) \*1日3講、計6講座となります。見学会はありません。

会場：平成知新館 講堂 定員：100名 聴講料：3000円

※申込方法：往復はがきに住所・氏名・電話番号を明記の上、京都国立博物館「夏期講座」係(〒605-0931 京都市東山区茶屋町527)までお申し込みください。お申込期間は6月1日～10日です。

\*5月31日以前の申込は無効となります。申込人数が定員を超えた場合は抽選とさせていただきます。また、熱で消せるボールペン(フリクションボールペン等)は使用しないでください。

### 《京都・らくご博物館 春～新緑寄席～vol.59》

日時：5月21日(金) 18時30分開演(18時開場)

会場：平成知新館 講堂

出演：桂二豆 桂佐ん吉 桂出丸 <中入> 桂紅雀 桂米團治

入場料：3200円(キャンパスメンバーズの学生は学生証提示により2600円)

※全席指定、庭園無料観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはウェブサイトよりお申し込みください。

お電話/博物館事業推進係 075-531-7504 <月～金の10～12時・13～17時に受付 \*祝日は除く>  
ウェブサイト/ <https://www.kyohaku.go.jp> らくご博物館【春】申し込み画面

## これからの展覧会

◆特別展 京の国宝—守り伝える日本のたから—  
7月24日(土)～9月12日(日)

◆特別展 畠山記念館の名品—能楽から茶の湯、そして琳派—  
10月9日(土)～12月5日(日)

新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいようお願いいたします。

## ◆名品ギャラリーの休止予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

庭園のみ開館期間：5月18日(火)～6月4日(金)

## ご利用案内

【開館時間】<3月27日～5月16日>

9:00～17:30

<5月18日～7月22日>

9:30～17:00

※入館は各開館の30分前まで ※夜間開館は実施しません

【観覧料】【特別展】<3月27日～5月16日>

一般1800円、大学生1200円、高校生700円

\*中学生以下、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、各種当日通常料金より500円引きとなります。

\*団体券はありません。

\*特別展期間中、名品ギャラリー(平常展示)は休止となります。

【庭園のみ開館期間】<5月18日～6月4日>

一般300円、大学生150円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者

とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

\*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がつきます。

【名品ギャラリー】<6月5日～7月4日>

一般700円、大学生350円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者

とその介護者1名は無料(要証明)。

\*キャンパスメンバーズ(含教職員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【休館日】月曜日(ただし5月3日は開館、5月6日休館)

## アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂前下車すぐ  
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分  
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分  
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分  
阪急電車=京都河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分  
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町527

TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)

ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2021年4月1日 デザイン 谷なつ子

編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

